

えぐね

※えぐねは、日本三大散居村の地、胆沢扇状地の屋敷の北西側に杉・栗・桐などの木を森のように植えて、冬の季節風から屋敷を守る防風林である。杉は建築材に、落葉は燃料や肥料などにも使われた。冬は温かく、夏は涼しく、緑豊かで快適な住環境を形づくるとともに、日本の原風景を代表する豊潤な景観を生み出している。

不安と期待が入り混じる中 令和3年度がスタートしました

令和3年度も、コロナの第4波到来を思わせるような厳しいスタートとなりました。奥州市でもコロナ感染者が出たことで、「胆沢中は大丈夫なのか?」、「始業式、入学式は行うのか?」といった問い合わせをたくさんいただきました。幸いなことにマチコミメールでお知らせしたとおり、現時点で本校の生徒及びご家族の中で濃厚接触者と特定された方がいたという報告はいただいておらず、また念のため自主的にPCR検査を受けた方からも「陰性だった」という報告をいただいておりましたので、予定通り年度初めの諸行事を行うことといたしました。

今私たちにできることは、これまで通りに自粛自粛した生活に努め、マスク着用と手指消毒を徹底することです。これからはマスク会食や、仕事(授業)のリモート化といった新しい生活様式への対応が一層求められてくることが予想されます。幸いにして、始業式での2,3年生の様子には一切浮ついたところがなく、最上級生、そして中堅学年としての決意を新たに式に臨んでいるように見え、とても頼もしく感じました。1年生も皆元気かつ素直で、「胆沢中の良き伝統=胆沢プライドをしっかりと引き継ぐ資質十分あり!」と感じました。先が見通せない不透明な状況の中でも、一筋の光を感じるスタートになったと前向きにとらえて、376名の生徒たちとともに意味ある一歩を踏み出していきたいと思っています。



※校歌紹介の時は、背筋を伸ばしてしっかり聴く人、生徒手帳を取り出して歌詞を確認する人等々、1年生の対応力の高さを感じました。

今年度の教職員を紹介します①

2,3年生には紹介式できちんと紹介しましたが、入学式ではしおりでの紹介で済ましてしまいましたので、少しずつ全職員を紹介していきます。

まずは新任の先生からです。今年度は9人の先生方をお迎えしました。皆さん、教育的情熱に満ち溢れる方々です。多彩な趣味(自動車修理、ギター、プロジェクトマップ、釣り等々)をお持ちの先生もいるようです。聞きたいことがあれば、是非本人に直接質問してみてくださいね。

副校長 川村 公人 先生
前任校 盛岡市立見前中学校



☆バランスボールで腰痛も解消!

地域の皆様、保護者の方々とともに真っすぐな心を持つ胆沢中の生徒のために歩みたいと思っております。ご指導、お力添えを下さいますようお願いいたします。

主幹教諭 土谷 智 先生
前任校 八幡平市立松尾中学校



☆1年理科と野球部を担当します。

全校生徒の皆さん、保護者や地域の皆様と協力し、胆沢中の新しい歴史づくりに貢献できるよう頑張ります。

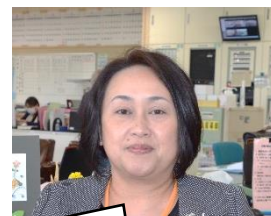
教諭 小岩 明子 先生
前任校 一関市立桜町中学校



☆2B担任、家庭科と女子卓球部を担当します。

胆沢地区、奥州地区の勤務は初めてですので、色々なことを教えていただきながら頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

教諭 富永 郁子 先生
前任校 奥州市立江刺第一中学校



☆1C担任、国語と女子バドミントン部を担当します。

10年ぶりに胆沢の地で勤務できることを、大変うれしく思っています。子どもたちと共に学び、成長していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

教諭 坂本 知香 先生
前任校 奥州市立東水沢中学校



☆学習室、創作部を担当します。

快活な胆沢中生に元気をもらいながら、ともに楽しく活動していこうと思っております。よろしくお願いいたします。

教諭 菊池 聡 先生
前任校 奥州市立江刺第一中学校



☆学習室、1年保健体育、男子バドミントン部を担当します。

若柳中以来、14年ぶりの胆沢勤務です。素直で活気ある子どもたちと豊かな地で学べることを楽しみにしています。乗り物好きで、見るだけでも飽きません。物作りも好きですが、上品には完成しないところがネックです。

教諭 小田 洋介 先生(新採用)



☆2C担任、技術と社会、男女剣道部を担当します。

6年間千葉県で教員をし、岩手に戻ってきました。出身は野田村です。この綺麗な校舎と奥羽山脈を眺められる素敵な胆沢で勤務できることを非常に嬉しく感じています。お子様方の成長を支え、共に頑張っ参ります。宜しくお願い致します。

教諭 澤口 祥太 先生(新採用)



社会科の新採用として、胆沢の地に赴任してきました。何もかも初めてですので、できることを一つ一つこなしていきたいです。
☆1B担任、社会とサッカー部・特設陸上部を担当します。

特別支援支援員
杉山 真愉子 先生



☆学習室の支援を担当します。英語の教員免許ももちです。

地元の子もたちと一緒に過ごせることをうれしく思います。素直な胆沢っ子が、学校を楽しめる場所だと思えるよう、少しでもお手伝いできたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

入学式でお話したこと

1 成功の陰には必ず失敗がある



エジソンは、電球のフィラメントの実用化のために約2万回の実験を行いました。この経験を、エジソンはこう表現しました。「私は失敗したことがない。2万回、電球がつかないという経験をしただけだ。あきらめたときが失敗なのだ。」

2 感謝の気持ちを持ち、「ありがとう」と伝えよう

本来、ありがとうという言葉は、「ありがたし、めったにない、珍しい。」という意味があります。しかしながら、身近にはたくさんの「ありがとう」が満ちあふれています。そのことに気づくためには、常に心のアンテナを高く立て、感度を高めておく必要があります。その感度を磨くためには、友達と本音で語り合い、本気でぶつかり合うことが必要です。失敗を恐れず意欲的に物事に挑戦し、感謝の言葉がたくさん行き交う学校になることを期待しています。

校報の名前「えぐね」は、

胆沢中学校がこの胆沢の地や人々にとってなくてはならない「えぐね」のような存在であり続けてほしいという願いをもって名付けました。小山、南都田、若柳の三つの中学校は約70年の歴史を刻みましたが、胆沢中学校は100年続く学校を合言葉に創立されました。その100年後は2117年です。その時1年生は108歳。是非たくさんの人が創立100周年を見届けてほしいと願っています。

1年生全員の素顔を見た

のは私だけかもしれません。入学式の呼名の時だけマスクを外して、皆大きな声で返事をしてくれました。新たな中学校生活への期待に満ち溢れた、とても凛々しい姿でした。

